



夏と皮膚病



皮膚科 宮本 麻子

【とびひ—伝染性膿痂疹—】

虫刺されやあせも、湿疹をひっかいたり、ケガの傷にばい菌がくっつくのとびひになります。そのばい菌は、鼻の穴や爪の下に住んでいることが多いので、鼻をいじった手で虫さされなどをひっかいたりするとそこに菌を植え付けることになり、その菌は皮膚を剥がす毒素を出すのでやわらかい水ぶくれとなり、簡単につぶれてべちゃっとしたかさぶたが付いて、とびひになります。その汁が飛び散るとどんどん広がります。とびひの原因菌は、黄色ブドウ球菌や溶連菌です。

治療は、ジクジクしたところにばい菌がたくさんいるので、可能ならば石鹸できれいに洗い流す事で菌の数が減らせるのでとても有効です。抗生剤の外用ととびひが広がっていれば内服もします。指(爪)で広げていくので、手洗いの時、爪の下もしっかり洗うようにして下さい。そして、元々の虫刺されやあせも、湿疹をしっかり治すことも再びとびひにならないようにするためには大切です。

園や学校では、ジクジクしているところは軟膏を外用してしっかり覆っておけば問題ないです。

プールは治るまで入れません。



【水イボ—伝染性軟属腫—】

水イボは、ウイルスによって人から人へうつる園児に多い皮膚の感染症です。皮膚が薄くてバリア機能の未熟な乳幼児やアトピー性皮膚炎や乾燥肌などバリア機能が低下しているとうつりやすく、広がります。健康な子どもでは6か月から3年くらいで自然治癒するとされていますが、個人差が大きく、いつ治るかを予測することは困難です。

プールの水ではうつりませんので、入ってかまいません。但し、タオル、浮輪、ビート板などを介してうつることがあるので、共用することは避けて下さい。

治療は、ペンレステープを貼付して、1時間すると、痛みを余り感じなく除去できますが、出血するのと恐怖で子どもさんは泣いてしまうことが残念ながら多いです。

予防としては、ドライスキンやアトピーのような皮膚バリアが弱い人は、湿疹の治療とスキンケアをきちんと行うことが大切です。

【虫刺され】

痒みは、皮膚に注入された物質に対するアレルギー反応によって生じます。即時型の反応(すぐ発赤、蕁麻疹が出て数時間で引くもの)と遅延型(1, 2日後発赤、水疱など出来数日から1週間位かかるもの)があります。このアレルギー反応は虫に刺された頻度やその人の体質によって違い、個人差があります。



人に被害を及ぼす蚊以外の虫



- ① ミ: 犬や猫に寄生。外では下肢に、室内では四肢、体が吸血されて、1, 2日後に水疱が出来ます。
- ② ブ(フト): 2~4ミリの小型のハエのような虫。すね付近を刺されること多いです。刺されている時は、痛みや痒みなく、刺されて半日位で赤く腫れて、激しい痒みが起こり、赤いしこりが残る事あります。
- ③ ダニ: ネズミに寄生するイエダニ類による室内での被害。0.7mm位で、寝ている間に布団に潜り込んで吸血。顔や四肢は刺されず、体や太もも内側を刺される事が多いです。痒みの強いブツツになります。
- ④ マダニ: 山や野原での被害。1~3mm。体、太もも、陰部にかみついて吸血。痒みを殆ど感じず数日後に吸血したダニが1cm近く大きく膨らんで大きなほくろが出来たように見えます。自然に脱落しますが、無理に引き抜かない方が良いです。日本紅斑熱など病気を媒介することあります。
- ④ 蜂(ミツバチ, アシナガバチ, スズメバチ): 刺されると激しい痛みがあります。赤く腫れるがこれは蜂毒の刺激作用によるもので、始めて刺されると普通は1日以内に治まります。2回目以降は、蜂毒に対するアレルギー反応が起き、ひどい場合は30分位でアナフィラキシーショック起こします。

治療: 軽症ならば市販のかゆみ止め外用。



赤みや痒みが強い場合はステロイド外用薬が必要。症状が強いときは抗ヒスタミン剤内服。

予防: 虫除け剤の代表ディートは、小児に対する注意として、顔に使用しない、生後6ヶ月未満は使用しない様に。





～各専門外来のご案内～



【小児外科】 外来は予約制です

＜診療時間＞ 月曜日～土曜日の午前・午後(金曜日午後を除く)は、大野康治医師が担当します。
 金曜日午後は大分大学医学部附属病院小児外科 當寺ヶ盛学医師が担当します。
 出張等で休診になることがあります。まずはお電話(097-567-0050)へお問合せください。

＜診療内容(主な疾患)＞

- 足の付け根やおへそがとびでている子(鼠径ヘルニア、臍ヘルニア)
 - 便秘の子
 - 肛門周囲の炎症やおでき(肛門周囲膿瘍、乳児痔瘻)
 - よく吐く子(肥厚性幽門狭窄症、胃食道逆流症)
 - おなか、胸、首などにしこりを触れる子(良性腫瘍、悪性腫瘍)
 - おなかが張っている子(腹部膨満)
 - おなかや胸を痛がる子
(急性虫垂炎、腸重積症、腸閉塞、脾炎、急性腸炎、気胸など)
 - 便に血液が混じる子
(潰瘍性大腸炎、クローン病、メッケル憩室炎大腸ポリープなど)
- それ以外の症状でもお問い合わせください。

＜当院小児外科の特徴＞

①2012年10月から小児外科手術を開始しています
 主に、鼠径ヘルニア、陰嚢水腫・精索水腫・又ック管水腫、停留精巣、包茎、臍ヘルニア、副耳、正中頸嚢胞、側頸瘻などの根治術を行っています。

②便秘外来
 (特別の枠を設けて診療しております。電話予約が必要です)

当院は大分県内で唯一便秘外来を行っています。
 日本トイレ研究所のホームページ(<https://www.toilet.or.jp/>)のプロジェクト→子どものための排便相談室→病院リストに当院が記載されています。

③小児の消化管内視鏡検査

当院の内視鏡検査は成人と同様の方法(静脈麻酔による鎮静下)で内視鏡検査に熟練した医師が行うため、原則としては外来で施行が可能です。(通常小児の内視鏡検査は全身麻酔下に行われることが多く、入院が必要になります)



すべて予約制ですので、
 お電話(097-567-0050)
 でお問い合わせください。

♪ 8月 各専門外来の予定♪

日	月	火	水	木	金	土
※各専門外来は 完全予約制 です。 ご希望の方は受付にお問い合わせください。 青…午前のみ 桃…午後のみ 黒…終日				1 皮膚科 小児外科 アレルギー科(阿部) 内分泌外来(前田) 神経外来(岡成) 児童精神科	2 皮膚科 小児外科 アレルギー科(後藤) 児童精神科	3 皮膚科 小児外科 循環器外来 泌尿器外来(秋田)
4	5 皮膚科 児童精神科	6 皮膚科 アレルギー科(阿部)	7 皮膚科 小児外科 こどもの心外来 アレルギー科(後藤) 腎臓外来(桑門) 児童精神科	8 皮膚科 小児外科 神経外来(福島) 児童精神科	9 皮膚科 小児外科 アレルギー科(後藤) 児童精神科	10 皮膚科 小児外科 泌尿器外来(森)
11	12	13 皮膚科	14 皮膚科 アレルギー科(後藤)	15 皮膚科 小児外科	16 皮膚科 小児外科 アレルギー科(後藤) 児童精神科	17 皮膚科
18	19 皮膚科 小児外科 児童精神科	20 皮膚科 小児外科 アレルギー科(阿部) 神経外来(岡成)	21 皮膚科 小児外科 アレルギー科(後藤) 腎臓外来(桑門) 児童精神科	22 皮膚科 アレルギー科(阿部) 内分泌外来(井原) 神経外来(福島)	23 皮膚科 小児外科 児童精神科	24 皮膚科 泌尿器外来(森)
25	26 皮膚科 小児外科 児童精神科	27 皮膚科 小児外科 アレルギー科(阿部)	28 皮膚科 小児外科 アレルギー科(後藤) 腎臓外来(桑門) 児童精神科	29 皮膚科 小児外科 アレルギー科(阿部) 神経外来(福島) 児童精神科	30 皮膚科 小児外科 アレルギー科(後藤) 児童精神科	31 皮膚科 小児外科 腎臓外来(田中) 泌尿器外来(秋田)